NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用した「探究入門」の取組～「言語運用能力」と「科学的リテラシー」の育成

2．学校名

兵庫県立三田祥雲館高等学校

3．実践者名（代表者名）

宮下巨樹（代表）

4．学年

高校1年次生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　274名

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記事を題材に議論･討論で学びを深める

7．目標(狙い)

賛否が分かれる社会問題やモラルジレンマを含む現代社会の課題等について、新聞記事を精読してそれらへの理解を深めるとともに、クラス内での討論を通して思考や考察を深め、自らの意見を確立させる。

8．評価の視点

発表される意見を聞き、思考の深まりや適切な言語の使用等について評価する。また、討論の様子を観察し、コミュニケーション能力を含む言語運用能力の向上について評価する。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間を通して、新聞記事の精読、教師と生徒、生徒同士の討論や対話を通して自らの思考を相対化し、さらに深化させる取組を行った。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

モラルジレンマを含む事象に関する記事を教材として配付し、はじめに個人ワークとして記事の精読を課した。わからない語句を調べ、疑問点を書き出し、データなどのあいまいな部分に気づいた場合はその点も記録するように指導した。次に、個人ワークを受けて、クラス全体やグループ（4～5名）内での討論を通して、記事への理解や疑問点、様々な視点について共有した。

また、同じ事柄に対する複数の記事を比較することも、内容理解を深めるために有用であることも認識させた。さらに、新聞社ごとのスタンスやデータの相違点等を比べることで、一つの事柄に対していろいろな視点を持つことの大切さを理解させた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒ははじめ、新聞記事を読むことの難しさや自分の意見を発表することに戸惑っていたが、他者と対話しながら理解を深めると同時に、他者の意見を参考にして自分の意見を相対化したり、より確かな意見に高めていくことに達成感を抱くようになった。

12．成果と課題

NIEとキャリア教育を有機的に連関させた取組を充実させたい。つまり、社会を客観的に考察することはもとより、社会を形成する者として、社会の中に自己を位置付けて在り方生き方を考え、主体的に社会に参画する態度を育成できるようなプログラムに発展させようと考えている。